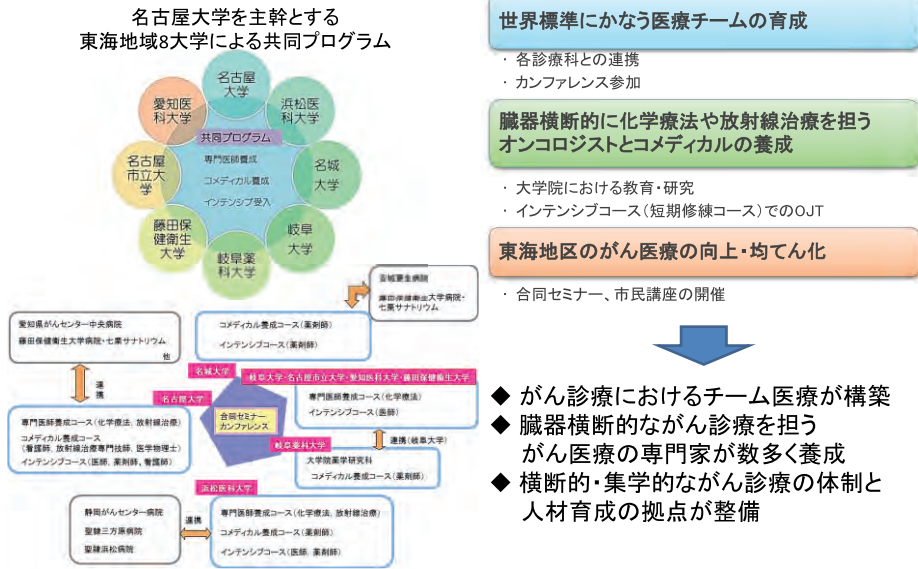


資料Ⅱ-5-21

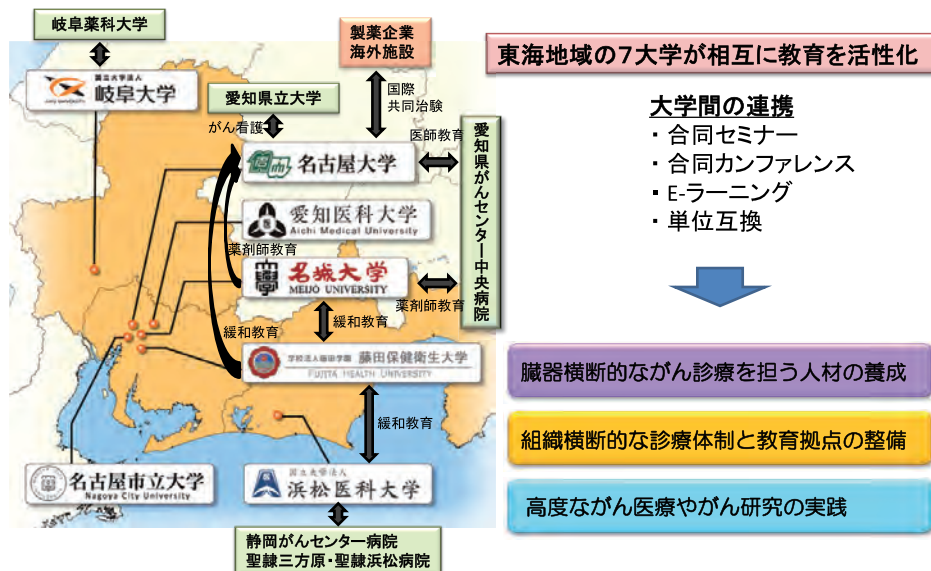
東海がんプロフェッショナル養成プラン 研究科長 「臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン」

研究期間：2007-2011年度 予算総額：5億6190万円



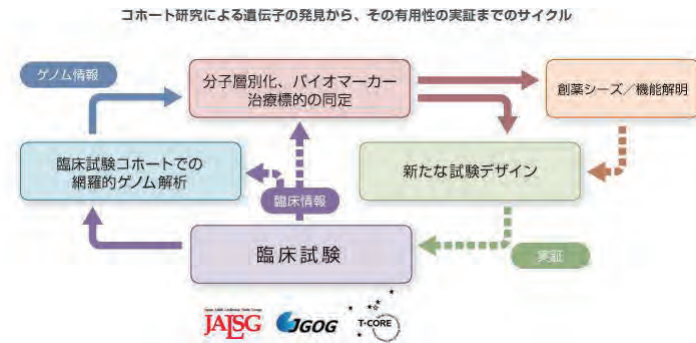
東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 研究科長 「組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成」

研究期間：2012-2016年度 予算額：1億4840万円（2012年度交付額）



資料Ⅱ-5-22

文部科学省受託研究 次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム「創薬コンセプトに基づく戦略的治療デザインの確立」血液・腫瘍内科学：直江知樹 研究期間：2011-2013年度 予算総額48,000千円(2012年度まで)



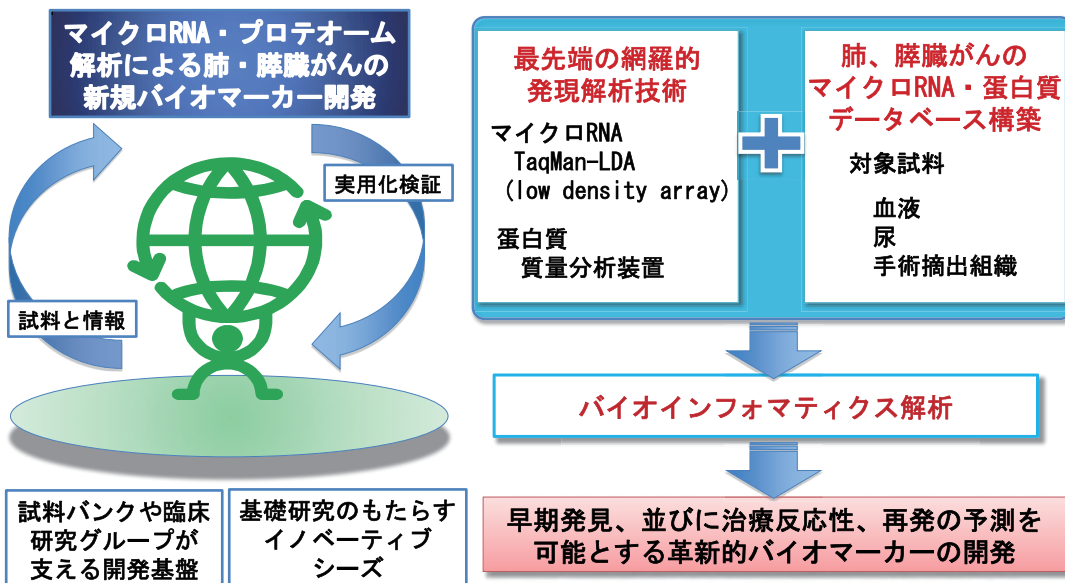
同一の治療を受けた白血病患者における、白血球検体と臨床情報を収集し、ゲノム解析データと統合的に解析することで、治療反応に関わるバイオマーカーや新たな分子基盤を明らかにし、新たな臨床試験の立案や薬剤開発シーズの開発へと繋ぐ。



資料Ⅱ-5-23

次世代がん研究戦略推進プロジェクト
研究期間：2011-2015年度 予算総額：2.0億円

分子腫瘍学：高橋 隆



資料Ⅱ-5-24

医薬基盤研究所受託研究「変異チロシンキナーゼを標的とした白血病治療薬の開発」 血液・腫瘍内科学：直江知樹 研究期間：2005-2009年度 予算総額373,000千円

1996年 白血病でFLT3/ITD変異を発見

2000年 FLT3/KDM変異を発見

2004年 リード化合物特許申請

新規阻害薬

	FI-700	KW-2449
Kinase inhibition	Selective	Multi
IC ₅₀ against FLT3	20 nM	6 nM
in vivo TGI	potent	potent
Oral availability	+	+
AGP binding	-	-
Cardiotoxicity	Negative	Negative

FI-700 CN1CCN(C1)CCN2C=NC3=C(N2)N(C)C=C3

KW-2449 CN1CCN(C1)CCN2C=NC3=C(N2)N(C)C=C3

コントロール群 KW-2449群

がん遺伝子タンパク質を標的 白血病の新薬開発

米国でのPI/II試験 (Protocol Number: 2449-US-002)

医薬基盤研究所プロジェクト(2005-2009)

- 構造展開
- Proof-of-concept確認
- 臨床サンプルでの評価系確立
- 分子モニタリングの確立
- 構造展開によるKIT阻害剤の開発
- 耐性機序の解明

2009年6月20日 中日新聞 科学新聞
 Kiyoi et al. Clin Cancer Res, 2007
 Shiotsu et al. Blood 2009
 Tsujimura A et al. Int J Hematol 2010
 特許番号4335212(平成21.7. 3)「インダゾール誘導体」
 特許番号4363530(平成21. 8.28)「タンパク質キナーゼ阻害剤」

資料Ⅱ-5-25

厚生労働科学研究（治験推進研究事業）神経内科学 祖父江 元 研究期間：2005-2014年度 予算総額：1,039,737千円 医師主導治験[酢酸リュープロレリン]

球脊髄性筋萎縮症 (SBMA) 患者に対するリュープロレリンの医師主導治験 (JASMITT)

2006年～JASMITT06DB試験 2011年～JASMITT11DB試験

① 北海道大学 ② 東北大学 ③ 自治医科大学 ④ 千葉大学 ⑤ 東京医科大学 ⑥ 東京大学 ⑦ 相模原病院 ⑧ 新潟大学 ⑨ 浜松医科大学 ⑩ 名古屋大学 ⑪ 神戸大学 ⑫ 鳥取大学 ⑬ 長崎大学 ⑭ 熊本大学

① 自治医科大学 ② 千葉大学 ③ 東京医科大学 ④ 東京大学 ⑤ 名古屋大学

2006年～医師主導治験の結果 (N=204)

咽頭部バリウム残留率の経時的変化

Change in Barium Retention (%)

全症例 (p=0.063) 罹病期間10年未満 (p=0.009)

Lancet Neurology 9: 875-84, 2010

自然歴解析 バイオマーカー同定

Brain 135: 2838-48, 2012 J Neural 259: 712-9, 2012

Ann Neurol 59: 520-6, 2006 Brain 131: 229-39, 2008 JNNP 81: 267-71, 2010

6-minute-walk testing Muscle Nerve 38: 964-71, 2008

尿8OH-dg Muscle Nerve 46: 692-7, 2012

Tongue Pressure

SBMAに対するリュープロレリンの承認取得
 神経変性疾患の臨床試験における
 新たなパラダイムの確立へ

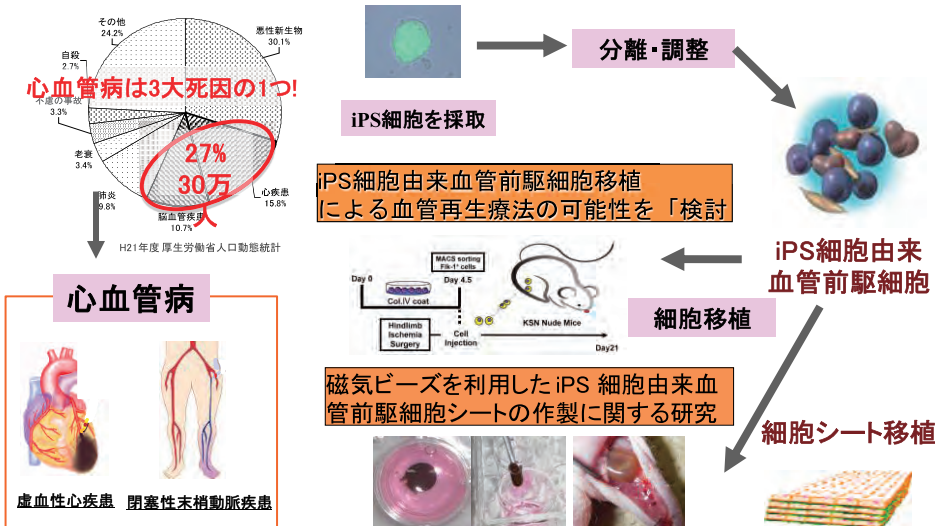
資料Ⅱ-5-26

再生医療の実現化プロジェクト(第Ⅱ期)

iPS細胞由来血管前駆細胞を用いた
新規血管再生医療の展開研究

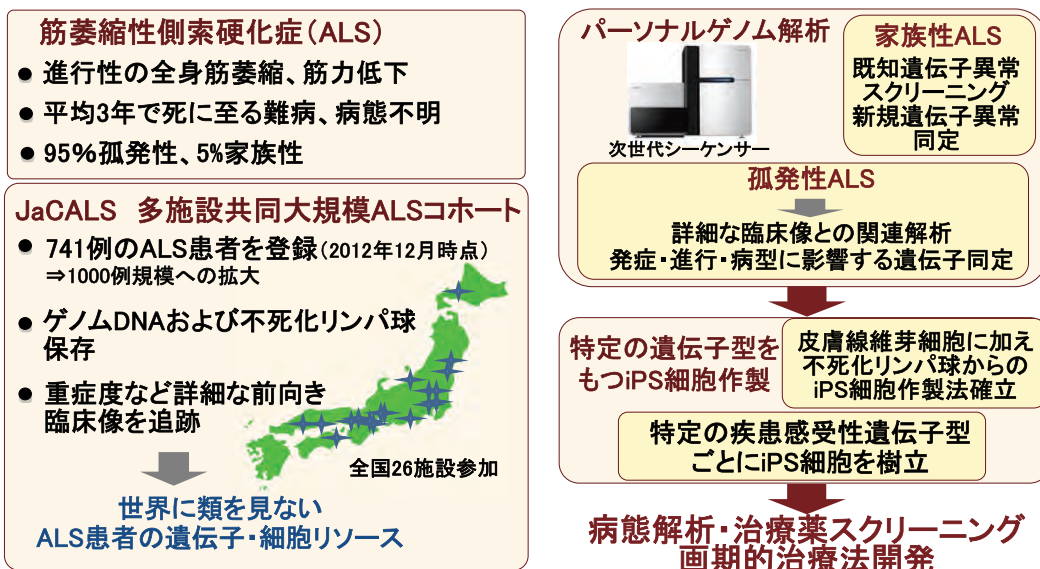
名古屋大学大学院医
学系研究科
室原豊明

研究機関 2008-2012年度 予算総額 247,603千円



資料Ⅱ-5-27

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）神経内科学：祖父江 元
大規模孤発性ALS患者前向きコホートの遺伝子・不死化細胞リソースを
用いた病態解明、治療法開発研究
研究期間：2012-2013年度 予算予想総額：200,000千円



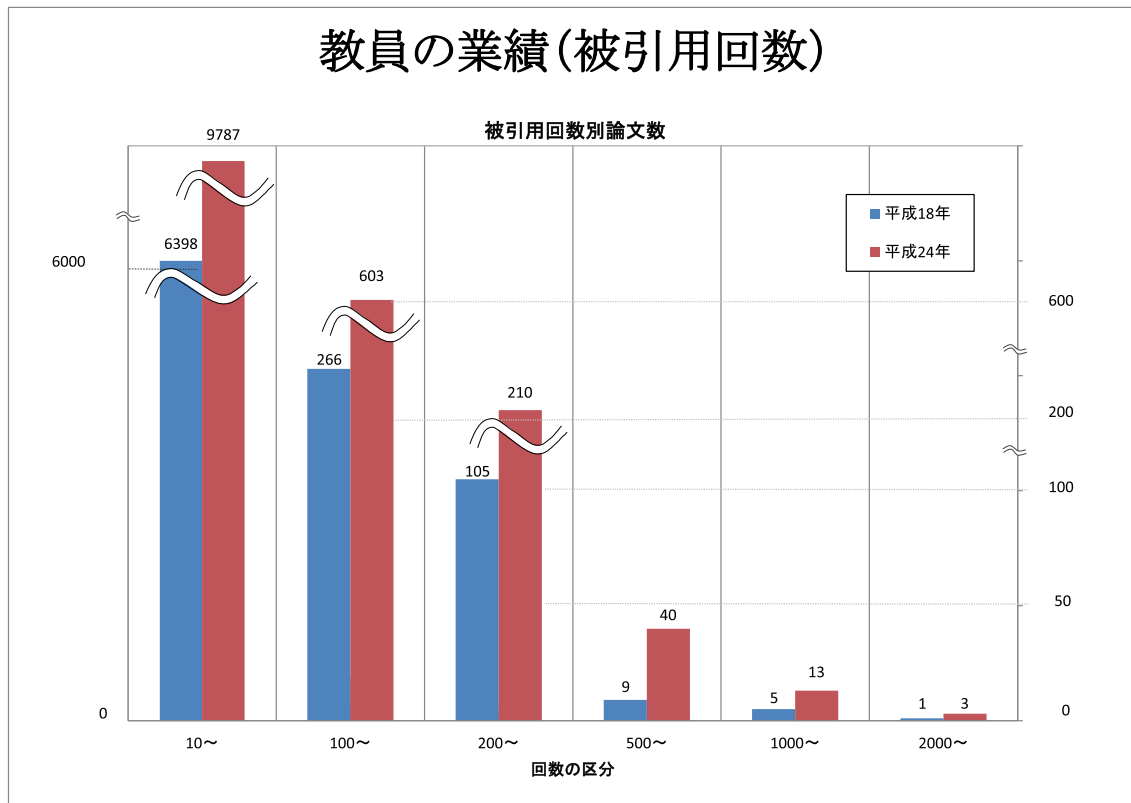
資料Ⅱ-5-28：先端医療支援部門での遺伝子製剤、培養細胞、培養組織等の試験物製造数

製剤名	製剤数	投与症例数
遺伝子治療製剤	32 製剤	10 症例
樹状細胞	8 製剤	8 症例
骨髄由来骨芽球様細胞	23 製剤	21 症例
CMV 抗原特異的 CTL	21 製剤	4 症例
EBV 抗原特異的 CTL	33 製剤	0 症例
骨髄由来骨芽球様細胞	22 製剤	20 症例
骨髄由来間葉系細胞	11 製剤	2 症例

※平成 18 年から 6 年間の実績

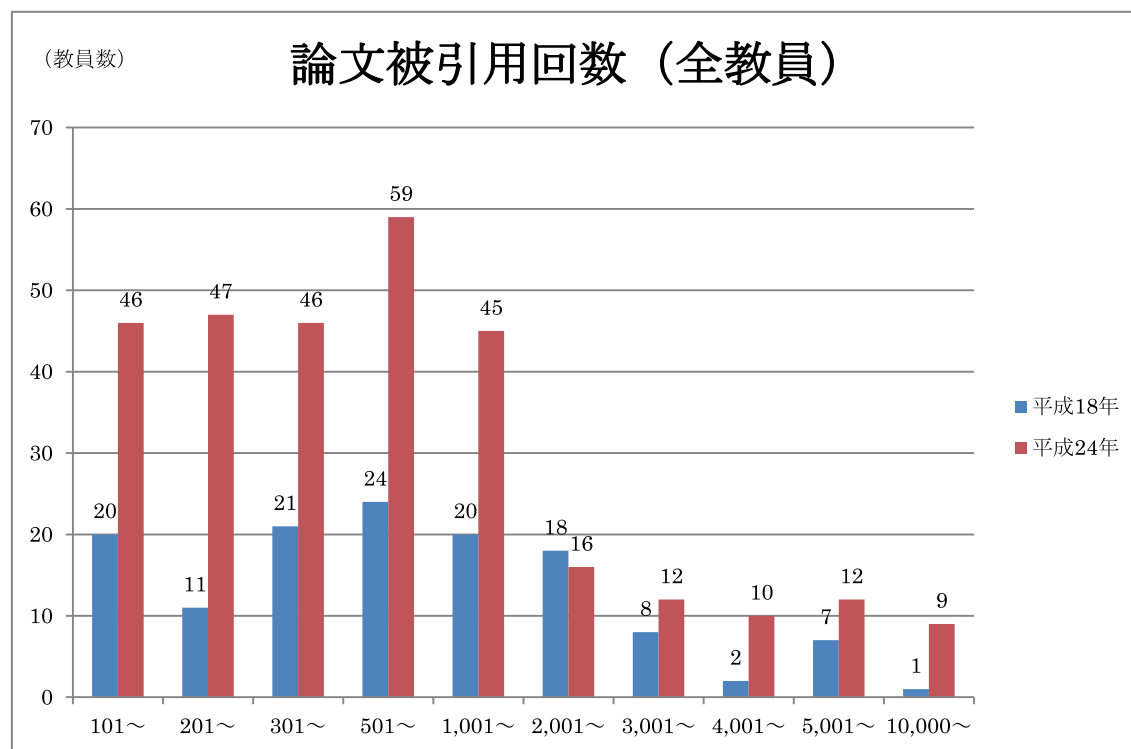
《先端医療・臨床研究支援センター資料》

資料Ⅱ-5-29



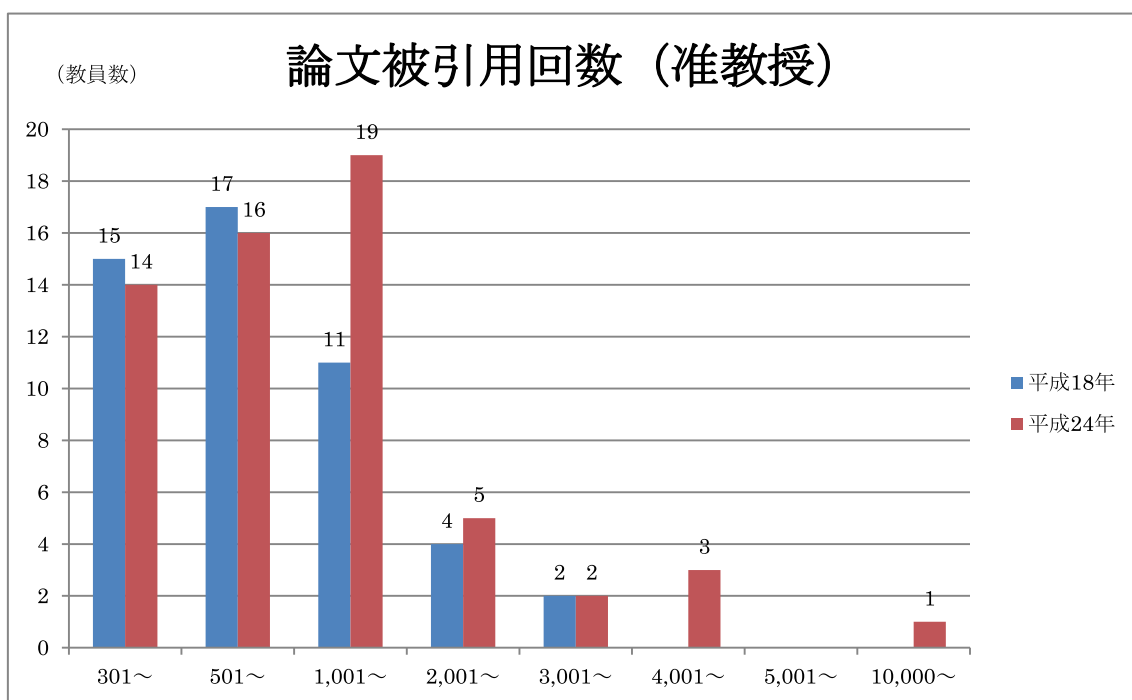
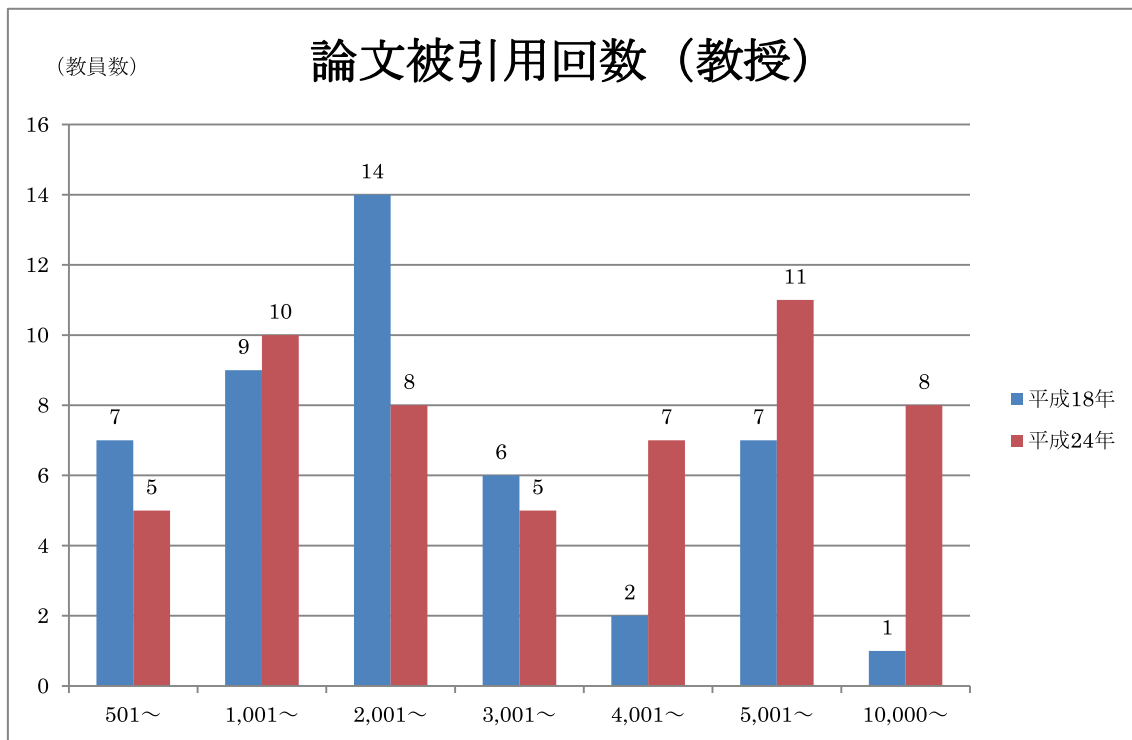
《出典：総務課資料》

資料Ⅱ-5-30



《出典：総務課資料》

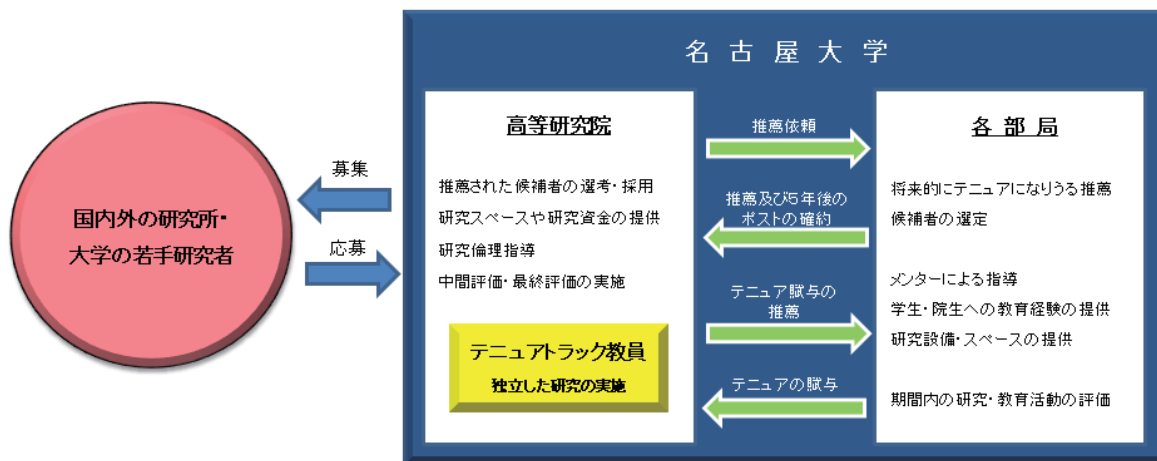
資料Ⅱ-5-31



《出典：総務課資料》

資料Ⅲ-1-1：テニュアトラックポジションについて

名古屋大学高等研究院研究者育成特別プログラム



目標とする「テニュア像」

- PI(Principal Investigator)としての高い能力
- 優れた教育能力・次世代の研究者を教育育成する能力
- 外部資金を獲得し、レベルの高い研究を維持するとともに研究費の適切な管理能力

資料Ⅲ-1-2：YLC について

名古屋大学若手育成プログラム特任助教

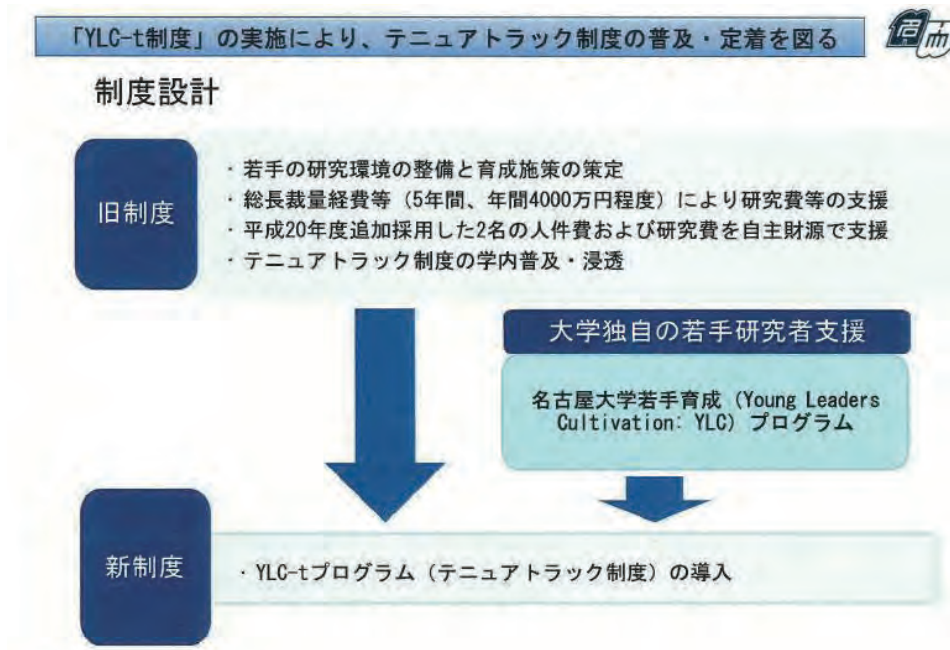
——YLC(Young Leaders Cultivation)——

■ YLCプログラムは、名古屋大学において、教育研究を将来にわたり継続的に発展させるためには、若手教員、特に助教クラスの質的、量的な確保が重要であることをふまえ、大学全体として継続的かつ計画的に若手教員を採用、養成するために実施する戦略的なプログラムです。

【YLC 採択者数】

	応募者数	採択者数	採択者数の内、 外国人人数	採択者数の内、 医学系研究科人数
H22年度	71名	11名	1名	1名
H23年度	54名	6名	0名	1名
H24年度	32名	5名(内1名辞退)	1名	1名(辞退)

資料Ⅲ-1-3：YLC-t について



【平成24年度「YLC-t 制度」公募要項】

名古屋大学若手研究者育成・テニュアトラック（YLC-t）プログラム
特任講師の募集について

名古屋大学は、文部科学省の科学技術人材育成費補助事業「テニュアトラック普及・定着事業」の支援を受け、我が国の基幹大学として研究力をさらに高め、次世代を担う若手研究者を育成する、「名古屋大学若手研究者育成・テニュアトラック（YLC-t）プログラム」を実施します。2012年度は、下記分野において、特任講師を公募いたします。

採択された特任講師には、独立した研究スペースと良好な研究環境が与えられます。2016年度に実施する最終審査において期待どおりの研究成果を挙げたと評価されれば、名古屋大学のテニュアを取得できます。本制度に関心を持つ方の応募をお待ちしております。

1. 募集分野及び募集人員

基礎医学及び臨床医学分野 特任講師 1名

2. 応募資格

①博士号取得後10年以内*1又は同等程度の研究経歴*2を有する若手研究者*3

②国籍は問わない。

*1：2012年9月30日現在で、博士号取得後10年以内（2002年10月1日以降の取得）

*2：博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得の上、退学した者（いわゆる「満期退学者」）で、退学後10年以内の研究者


*3：2012年9月30日現在で、43歳未満であること

【YLC-t 制度採択者数】

	応募者数	採択者数	採択者数の内、 外国人人数	採択者数の内、 医学系研究科人数
H23年度	92名	2名	0名	1名
H24年度	17名	1名	0名	1名


異分野融合・系統講義実習教育プログラムの実施

① プロGRESSレポート会議



異分野からの討論・指導

② NAGOYAグローバルリトリート



若手外国人の参加・英語での発表

③ 若手研究推進・研究者交換共同プログラムによる融合型研究(研究費)

④ 系統的大学院教育プログラム (英語で実施)

COE系統講義カリキュラム		COE実習カリキュラム
トランスレーショナルリサーチ	ニューロサイエンス	スーパートレーニングコース
ベーシックサイエンス	がんサイエンス	スキルアップセミナー

⑤ キャリアパスプログラム(GCOE准教授・講師・助教、RA、YLCプログラム(連携))


世界との連携強化と海外研究者の参画 (G30との連携)

Human Frontier Science Program
に基づく連携・共同研究の発展



AMOLFからの若手招聘 EMBLからの若手招聘

若手外国人研究者招聘プログラム
ヨーロッパ、米国、中国、韓国、他



欧米からの留学生 アジアからの留学生

名古屋大学海外事務所の活用 フライブルグ(独)、上海(中)、ハノイ(ベトナム)、ノースカロライナ(米)

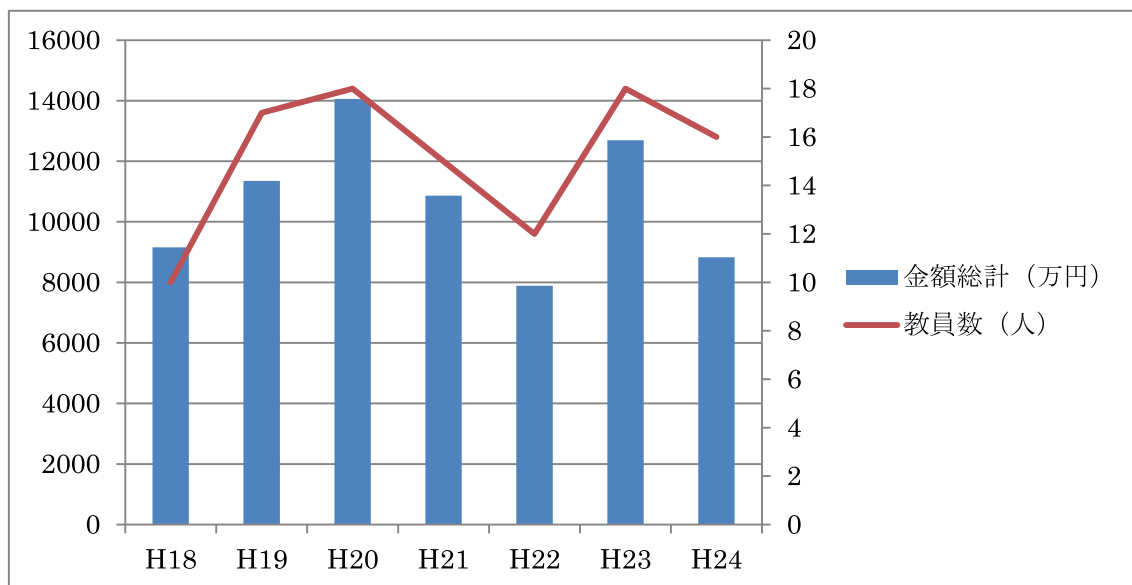
研究・人材育成の実績

Publications (2008-2012): New Engl J Med (2012), Nature (2010), Cell (2008),
 Nat Genet (2008, 2009, 2010), Cancer Cell (2012), Nat Med (2009,
 2012), Lancet Neurol (2010, 2011), Nat Cell Biol (2008, 2010,
 2012) Promotion of Young Researchers (2008-2012)

Professor 8, Associate Professor 7, Lecturer 15, Assistant Professor 26

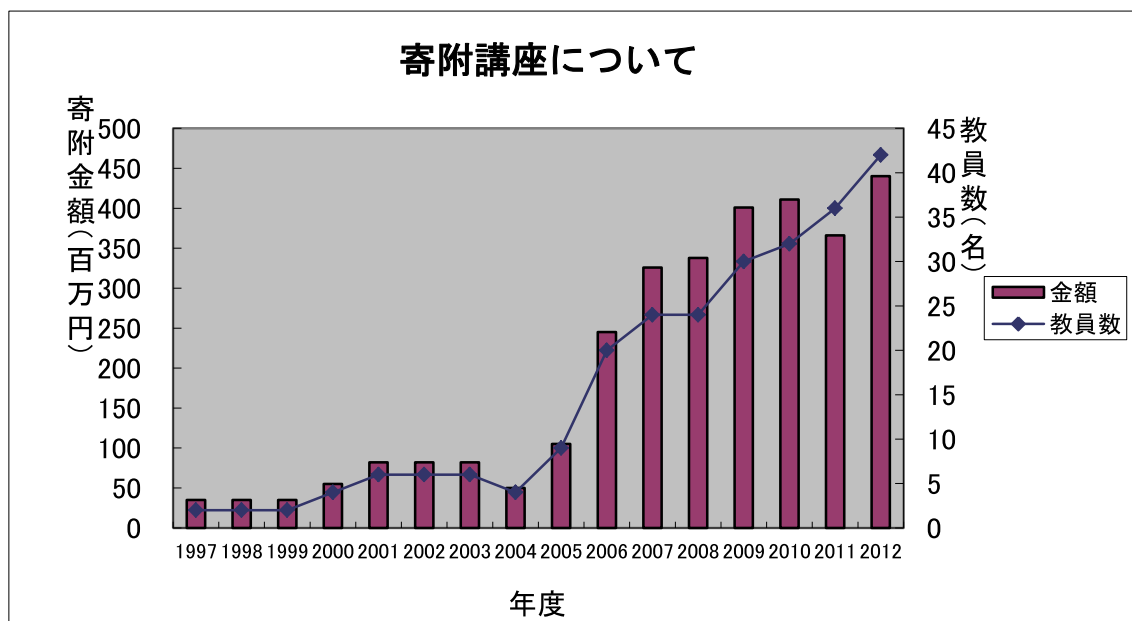
Post Doctoral Fellow 54, No. of PhD Granted 256

資料Ⅲ-4-1：特任研究プロジェクトの教員数及び研究費総額



《出典：総務課資料》

資料Ⅲ-4-2



《出典：経営企画課資料》

資料Ⅲ-5-1

ポスドク（博士研究員）雇用人数の経年データ（2008年度-2012年度）

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
常勤	2	5	4	4	6
パート	35	24	25	26	24
合計	37	29	29	30	30

《総務課人事労務グループ資料》

資料Ⅲ-5-2

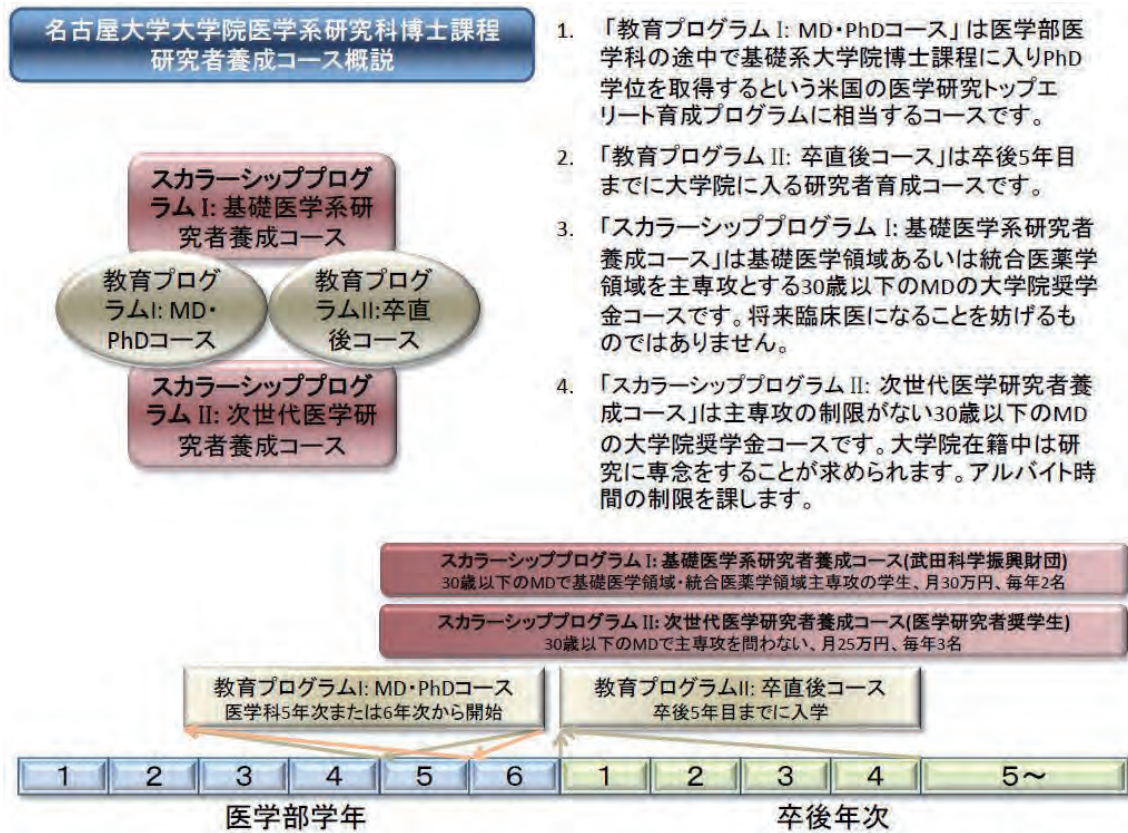
日本学術振興会PD採択状況

年度		基礎	臨床	合計
2008	応募数	8	3	11
	採択	※1	1	2
2009	応募数	2	2	4
	採択	0	0	0
2010	応募数	4	0	4
	採択	0	0	0
2011	応募数	1	0	1
	採択	0	0	0
2012	応募数	4	1	5
	採択	1	1	2

※はSPDで採用

《総務課人事労務グループ資料》

資料Ⅲ-6-1：研究者養成コース



http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical/dbps_data/_material/_nu_medical/_res/daiga_daigakuinky/jugyouannaikibanigakujiiron/2013year05month/2013052203.pdf

《医学部・医学系研究科 HP 抜粋》

資料Ⅲ-7-1：医学部学生研究会



カリキュラム

コースは目標に合わせて2種類。研究室に所属すれば活動の幅も広がります。

ベーシックコース

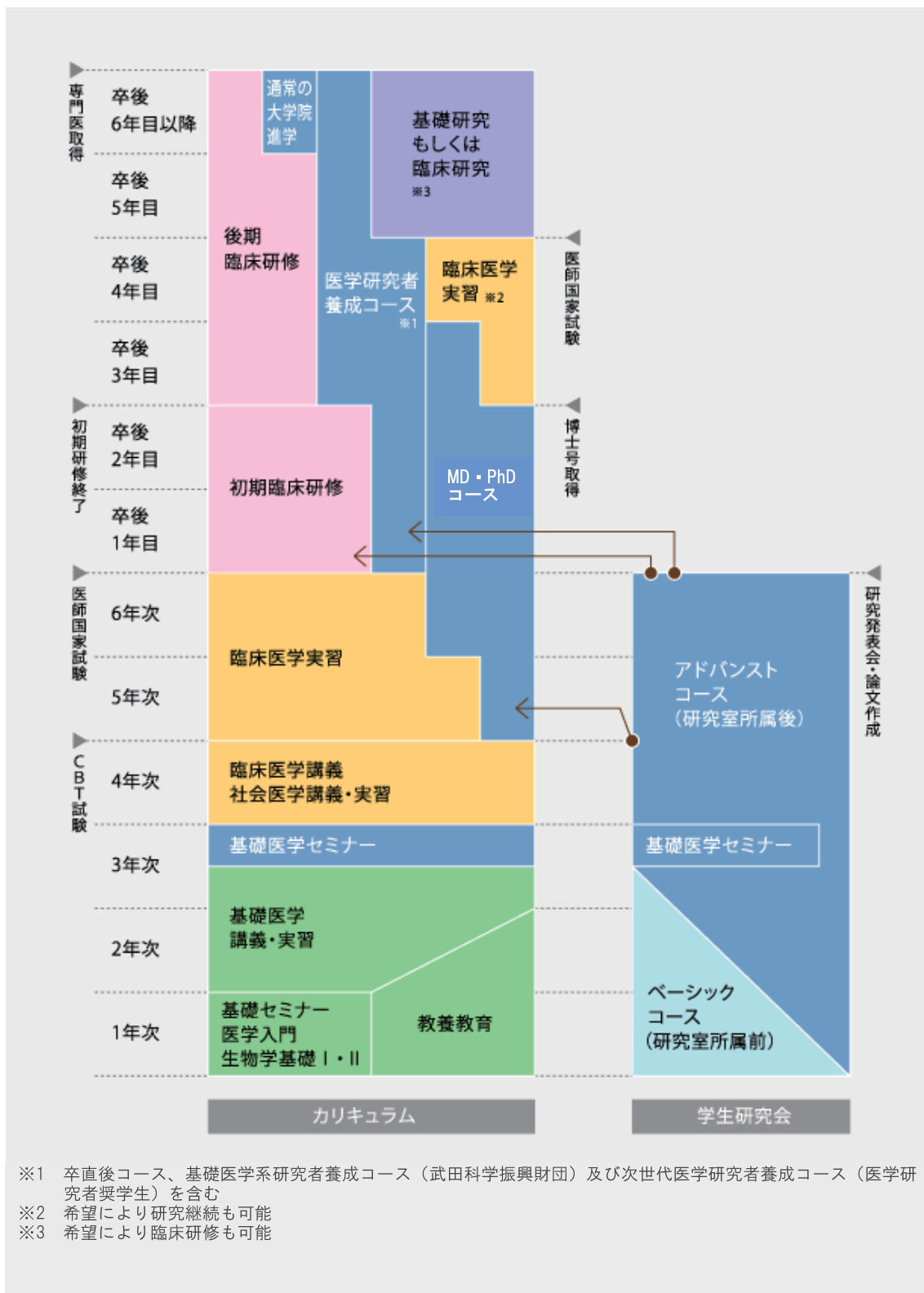
推薦入学者は、1年次の間は必ず参加してください。その他の学生について、参加は自由です。
ベーシックミーティングに参加して「研究とは何か」を知ったうえで、
自分の希望と一致する研究室を見つけてください。また、希望すれば研究室を見学することができます。

- > 対象 : 研究を志望する学生
- > 参加申込 : 希望者は専任教官まで連絡ください。

アドバンスコース

研究室に所属して、研究活動を行っている学生のみ参加可能です。
卒業まで継続し論文1本作成することを目標とします。
また、進捗報告会への参加、後輩の指導、6年次の研究発表会での発表を必須とします。
参加者は、学会参加や海外派遣等のサポートを受けられます。

- > 対象 : 研究室に所属して研究活動を行っている学生
- > 参加申込 : 希望者は専任教官まで連絡ください。随時受付しています。
多数の場合は、学生研究会担当教授および専任教官との面接を行います。



《医学部学生研究会 HP から抜粋》

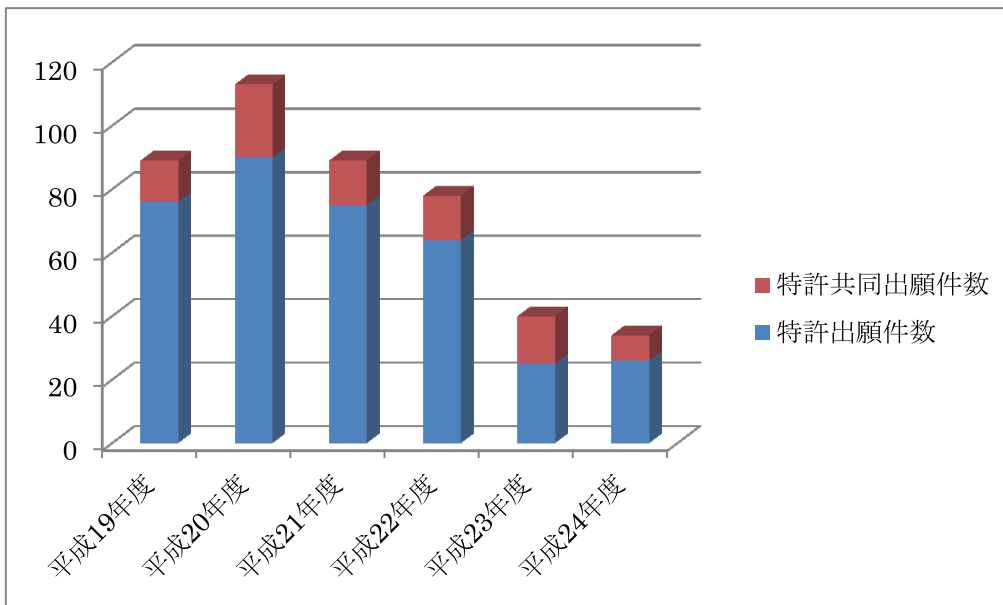
資料Ⅲ－8－1：行政機関・企業への人材供給と人材育成

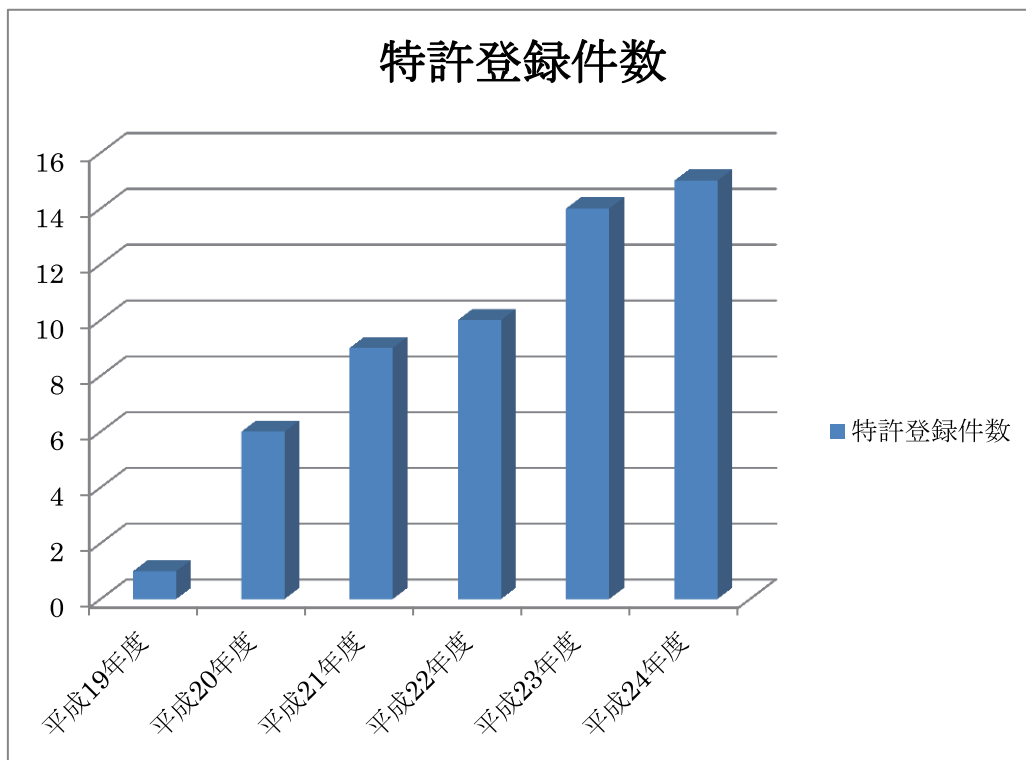
退職後の就職先					
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
厚生省関係	5	2	3	2	7
文科省関係	1		1	3	3
他省庁					
民間	1		2		
合計	7	2	6	5	10
退職後の就職先	厚生労働省医療職員	厚生労働省非特定独立行政法人	厚生労働省非特定独立行政法人	厚生労働省特定独立行政法人	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所
	厚生労働省医療職員	厚生労働省医療職員	厚生労働省特定独立行政法人	厚生労働省非特定独立行政法人	国立病院機構指宿病院
	厚生労働省特定独立行政法人		厚生労働省特定独立行政法人	独立行政法人日本学術振興会	国立病院機構名古屋医療センター
	厚生労働省医療職員		独立行政法人日本学術振興会	独立行政法人日本学術振興会	国立病院機構名古屋医療センター
	厚生労働省医療職員		民間等・その他	独立行政法人日本学術振興会	国立病院機構名古屋医療センター
	科学技術振興機構		民間等・研究職員		国立病院機構名古屋医療センター
					厚生労働省医療技官
					独立行政法人日本学術振興会
					独立行政法人日本学術振興会
					国立長寿医療研究センター

採用前の勤務先					
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
厚生省関係	3	1	1	5	3
文科省関係	3	1	1	3	2
他省庁	1				1
民間	1		2		
合計	8	2	4	8	6
採用前の勤務先	厚生労働省特定独立行政法人	厚生労働省研究職員	厚生労働省非特定独立行政法人	厚生労働省研究職員	厚生労働省研究職員
	厚生労働省医療職員	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構基礎生物学研究所	独立行政法人科学技術振興機構	厚生労働省特定独立行政法人	国立長寿医療研究センター
	厚生労働省特定独立行政法人		民間等・研究職員	厚生労働省医療職員	国立病院機構三重中央医療センター
	独立行政法人放射線医学総合研究所		民間等・研究職員	厚生労働省研究職員	独立行政法人理化学研究所
	独立行政法人理化学研究所			国立長寿医療研究センター	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所
	独立行政法人日本学術振興会			独立行政法人理化学研究所	法務省法務技官
	法務省医療職員			独立行政法人理化学研究所	
	民間等・研究職員			大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所	

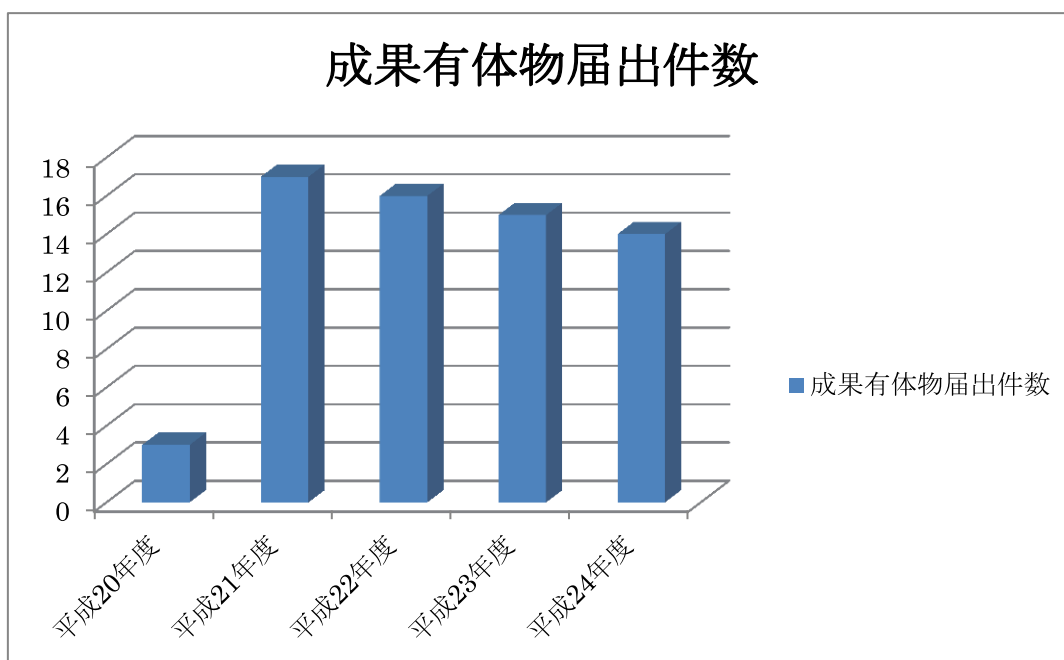
《総務課人事労務グループ資料》

資料Ⅳ－1－1：特許出願件数及び登録件数





資料IV-1-2 成果有体物 届出件数



資料IV-1-3：中部地区医療・バイオ系シーズ発表会等を通じた共同研究等

中部地区 医療・バイオ系シーズ 発表会

New Technology Presentation Meetings!

中部地区の大学・研究機関から最先端のシーズを発信!

全国の企業と交流し、医療・バイオ産業の活性化をめざします

2012年12月4日(火)
13:00~19:20

会場

ウインクあいち 10階 (愛知県・名古屋市)

事前登録制
参加費無料

プログラム

	13:00~13:15	13:15~13:20	13:20~13:35	13:35~13:50	13:50~14:05	14:05~14:20	14:20~14:35	14:35~14:50	14:50~14:55	14:55~15:10	15:10~15:25	15:25~15:40	15:40~15:55	15:55~16:10	16:10~16:15	16:15~16:25	16:25~16:50	16:50~17:15	17:20~18:20	18:20~19:20
	主催者挨拶	13:15~19:20 シーズ展示会 ※発明・展示者が17:20~展示ブースに立ちます。53シーズと6ベンチャー 合計59件のシーズを展示する他、中部地区のバイオ振興の各種取り組みも紹介します。	研究成果の実用化に向けて ~JSTの産学連携・技術移転支援事業のご紹介~	1 生体信号画像処理 24時間心拍変動モニタリングによる敗血症性ショック発症の予知	2 医療情報 MRIを用いて癌検出を計測・可視化する技術の開発と応用	3 免疫学 相同組換え可能なレトロウイルスベクター	4 動物モデル 自然発症肺線維症のヒト化マウスモデルの開発	5 皮膚科学 皮膚に対する色素沈着毒性を鋭敏に評価できるマウスの開発	6 有機合成化学 光学活性β-アミノニトリル化合物の効率的合成	7 病理学 骨がんのための新規ドラッグデリバリー技術に応用可能な腫瘍ホーミングペプチドの開発	8 ワクチン 樹状細胞標的化バイオナノカプセルを用いる高免疫原性ワクチン	9 検出キット 脳出血や炎症性大腸炎を誘因・増悪する虫歯菌の検出方法	10 神経精神薬理 セロトニントランスポーターの代謝を標的としたうつ病の診断・治療薬開発	11 幹細胞 強力な免疫抑制作用を有する脂肪組織由来幹細胞の新規調整法	休憩	A 中部地区での先端医療開発・臨床試験推進の取組み 中部先端医療開発円環コンソーシアムについて	B 先端医療開発・臨床試験推進における臨床研究事例 [基調講演] 成人T細胞性白血病/リンパ腫に対する抗体療法	C 先端医療開発・臨床試験推進における臨床研究事例 [基調講演] インターフェロン反応チップ	シーズ展示会(発明・展示者の滞在コアタイム) ※展示は13:15よりご覧いただけます。	交流会
Meeting Schedule	国立大学法人名古屋大学 副総長、産学官連携推進本部長、附属病院長 松尾 清一 独立行政法人科学技術振興機構 産学連携展開部 部長 黒木 敏高	科学技術振興機構 技術移転総合相談窓口	岐阜大学 工学部 応用情報学 教授 横田 康成	岐阜大学 大学院医学系研究科 医科学専攻 教授 / 大学院総合創薬医情報研究科 医療情報学専攻 研究科長 紀ノ定 保臣	富山大学 大学院医学薬学系研究部 免疫学 准教授 岸 裕幸	三重大学 大学院医学系研究科 生命医科学専攻 教授 ガバザ エステバン	中部大学 生命健康科学研究所 研究員 飯田 真智子	名古屋工業大学 大学院工学研究科 未来材料創成工学専攻 准教授 中村 修一	休憩	愛知がんセンター 研究所 腫瘍病理学 部長 近藤 英作	名古屋大学 生命農学研究所 生命技術科学専攻 教授 黒田 俊一	浜松医科大学 医学部 薬理学講座 教授 梅村 和夫	名城大学 薬学部 地域医療薬局学 教授 網島 俊隆	名古屋大学 医学系研究科 腎臓内科学 准教授 丸山 彰一	休憩	中部先端医療開発円環コンソーシアム理事 名古屋大学附属病院長 松尾 清一	愛知医科大学 医学部 腫瘍免疫寄附講座 教授 上田 龍三	金沢大学 医家保健研究域 医学系 教授 金子 周一		

お問い合わせ先	新技術説明会について	中部地区 医療・バイオ系シーズ発表会について
	科学技術振興機構 産学連携グループ ☎ 0120-679-005 ☎ scett@jst.go.jp FAX 03-5214-8399	「中部地区医療・バイオ系シーズ発表会」実行委員会事務局 ☎ chubu_seeds@sangaku.nagoya-u.ac.jp

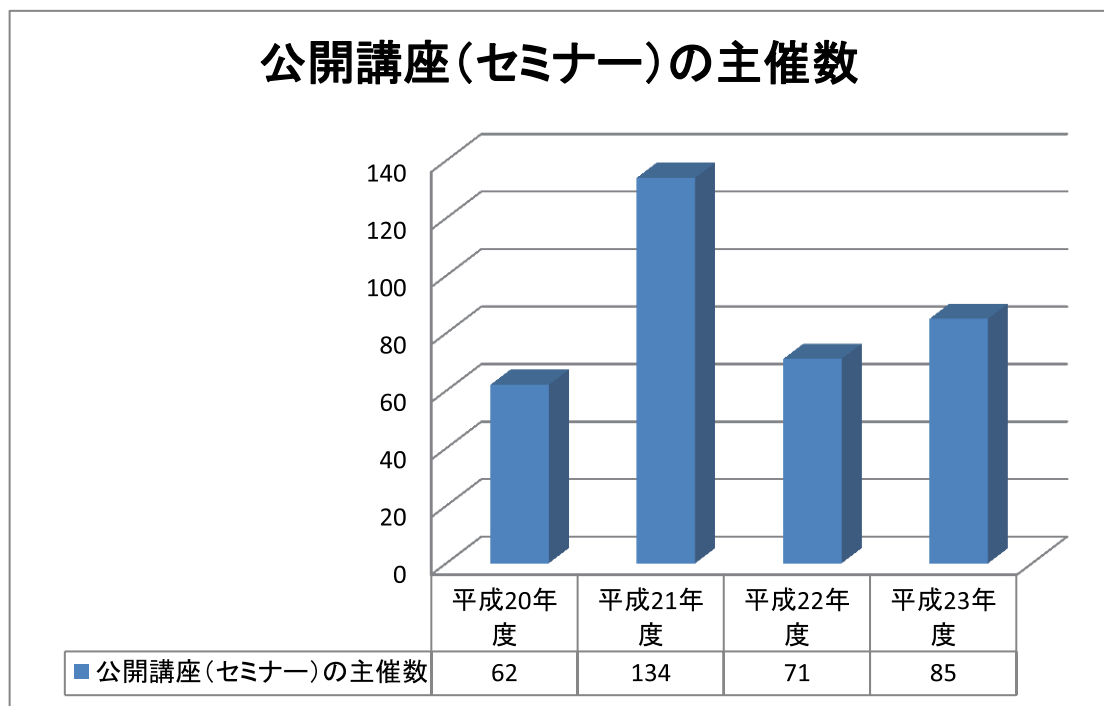
<http://jstshingi.jp/chubu-med-bio/2012/>

ホームページまたは Fax にてお申し込みください。

- 主催 ▶ 中部地区医療・バイオ系シーズ発表会実行委員会、独立行政法人科学技術振興機構
株式会社日本能率協会コンサルティング (平成24年度地域新成長産業創出促進事業者 / 中部経済産業局補助事業者)
- 後援 ▶ 独立行政法人中小企業基盤整備機構中部本部、全国イノベーション推進機関ネットワーク、公益財団法人科学技術交流財団
一般社団法人中部経済連合会、中部医療機器工業協会、名古屋商工会議所、公益財団法人名古屋産業科学研究所 中部TLO
愛知県、名古屋市、三重県、岐阜県、中部先端医療開発円環コンソーシアム、NPOバイオものづくり中部、名古屋大学協力会

《出典：ホームページ》

資料IV-2-1



《出典：病院機能指標_名古屋大学（国立大学附属病院長会議 資料）》

資料IV-2-2

